

Ⅱ－B. 授業アンケートの基礎的分析 —— 2004年度後期及び2005年度前期 ——

1. 本論の目的

本節では、2004年度後期、及び、2005年度前期に実施された、京都大学工学部の授業アンケートの基礎的な集計結果を示す。

2004年度後期に実施された授業アンケートは、『2004年度工学部授業アンケート（速報版）——平成16年度採択特色GP「相互研修型FDの組織化による教育改善」活動報告（2005）』に、その基礎集計が示されているが、ここでは、2005年度前期の授業アンケート結果を追加すると共に、成績データとの関連性の分析も含めて報告することにする。

なお、成績データは、工学部の調査対象学生のものに限っており、成績との関連性については、工学部学生のみが対象となっている。工学部の授業アンケートは、前節で詳説しているように、2005年度前期から、2005年度入学の学生を中心に追跡調査していくこととしているが、追跡を可能とするという意味では、成績データとマージ可能な工学部学生のデータに絞られていくことになる。授業アンケートの対象科目の受講生は、工学部の学生に限られているわけではなく、以下では、そのような学生も含む回収データ全体の集計結果である場合と、成績データとマージ可能であった工学部学生のみ結果とが混在していることに注意されたい。例えば、成績データ等との関連性を示す統計指標の算出に利用されるデータは、成績データとのマージが可能なものに限られることから、自動的に工学部学生のみを対象データが絞られることになる。ただし、本授業アンケートは工学部を対象としたものであり、そのように工学部学生のみを対象が絞られたとしても、分析結果は概略全体の特徴を反映していると考えてよい。

2. 分析の対象データ

2－1. 2004年度後期

(a) 対象科目

対象科目は、2004年度後期に開講されている工学部3学科（地球工学科・建築学科・電気電子工学科）関連のすべての「講義」科目とした。なお、各学科の専門科目の他に、全学共通科目として実施されている専門基礎科目も含まれている。また、「演習」と名のつく科目であっても、「講義」的な授業とみなされるものについては対象科目に含めた。その結果、当初、工学部から指定された該当科目は、128科目となった。ただし、授業アンケートの実施の中で、いくつかの科目は、例えば、同一教師が同名の講義を別時間で開催しているものなどがあって、それを最終的には別科目として扱ったために、それを含めると当初対象科目は133科目とす

ることができる。その内訳は、地球工学科 50 科目、建築学科 18 科目、電気電子工学科 28 科目、専門基礎 36 科目、共通科目 1 科目であった。

当初対象とされた科目の内、授業アンケートを配布する以前に授業が終了してしまった科目、協力が得られなかった科目など、13 科目が未実施となったため、実際に授業アンケートを実施した科目は 120 科目であった。内訳は、地球工学科 47 科目（3 科目未実施）、建築学科 18 科目（未実施なし）、電気電子工学科 21 科目（7 科目未実施）、専門基礎 34 科目（2 科目未実施）、共通科目 0 科目（1 科目未実施）であった。

授業アンケートを実施した 120 科目に関して、その科目の属性、また、個々の項目や成績等の受講工学部学生の平均値等を変数とするデータセットを構成して分析対象とする。

(b) 回答学生

授業アンケートに回答した学生は、基本的に、対象となった科目のアンケート実施授業時間に出席していた学生である。対象科目が工学部関連の科目であり、回答学生のほとんどは工学部の学生であったが、他学部の学生の受講も認められているため、一部、工学部以外の学生も回答している。

授業アンケートには、一人の学生が複数科目に対して回答する場合も少なくない。その場合、異なる科目の回答者が同一であることは、マークシートに記載させた学生番号によって確認することができる。ただし、学生番号のミス記入の可能性もあることから、同一学生であることを保証するために、成績データとマージ可能であった工学部学生のみを取り上げてみると、その条件に適合した工学部学生は 1,329 人抽出された。その内訳は、地球工学科 580 人、建築学科所属学生 198 人、電気電子工学科所属学生 406 人、その他の工学部学科所属学生 145 人であった。また、今回対象となった工学部 3 学科に関しては学年の情報も得られており（他学科学生については学年の情報は得られていない）、その 3 学科の所属学生 1,184 人に関しては、1 回生 366 人、2 回生 342 人、3 回生 341 人（内 10 名は平成 16 年度編入学生）、4 回生 135 人（内 3 名は平成 15 年度編入学生、内 47 名は平成 12 年度～平成 8 年度入学学生）であった。また、性別に関しては、マークシートにマークされた結果から、男子 1,195 人、女子 127 人（欠損値 7 件）という分布であった。

(c) 科目×学生データ —— マークシート単位のデータ

授業アンケートの回答マークシートは、全データが白紙であるものを除き（未使用のマークシートが混入したと思われる）、5,764 件であった。マークシートには、各科目の情報があらかじめ印刷されており、科目の同定に関しては確度が高いことから、授業担当教員にフィードバックするための基礎集計結果は、この 5,764 件のデータに基づいて算出された。

なお、このうち、学生番号が未記入のものや、誤マークのもの、また、「1234567890」など意図的に違う学生番号をマークしたものなど、学生番号が欠損値となるマークシートが 5% 強含まれていた。そこで、対象科目等の工学部受講学生の成績データを参照し、マークシートに記載されている名前を活用するなどして、一部のデータについては、学生番号を修正入力した。そのような対照する際に利用するために、マークシート用紙には氏名記入欄も設けておいたが、マージ不能であったデータのなかには名前も未記入のものもあり、学生番号記載に不

備のあったすべてのデータについて学生番号を同定することはできなかったが、このデータ・クリーニング作業によって、300件以上のデータを、成績データとマージさせることができた。

なお、工学部から提供を受けた成績データは、対象科目の登録工学部学生の当該科目の成績データ 12,089 件、工学部 3 学科全学生の 2004 年度後期の全成績データ 23,192 件である。両者を合わせて、23,756 件の成績データについて、学生番号、及び、科目コードをキーに、成績データと授業アンケートのデータをマージしている。

以上の手続きを踏んで、なおかつ、成績データとマージできないものとして、学生番号が不備（学生番号の未記入・誤記入等で、かつ、記名欄に氏名が書かれていないなどの理由でクリーニング不能）であったデータ、成績データが得られなかった工学部以外の学生のものでたなどの可能性があり、それらはちょうど 300 件であった。

一方、成績データとマージできた（学生番号が正しく判別できた）データは、5,464 件であり、その内訳は、表 1 に示すとおりである。基本的に、所属学科の提供科目に対する回答が多くなっている他、当然のことながら、専門基礎科目は、1 回生を中心（3 学科 773 件）に各学科にばらついている。また、今回対象としなかった工学部のその他の学科の学生で、授業アンケートに回答した学生は、1.12 件/人という平均回答件数であることから、複数の科目に回答している学生は少ないことがわかる。

本報告では、成績データと授業データとの関連性を検討することが一つのねらいでもあり、その場合は、マージ可能であった上記 5,464 件のデータが、マークシート単位、すなわち、「学生×科目」単位の分析対象となるデータセットを構成することになる。

表 1 科目の開講部局と所属学科別回答学生数（2004 年度後期）

学生所属 開講部局	地球物理学科 580 人	建築学科 198 人	電気電子学科 405 人	その他 145 人	計 1,329 人
地球物理学科 47 科目	2,332 件	1 件	2 件	7 件	2,342 件 49.8 件/科目
建築学科 18 科目	0 件	583 件	0 件	0 件	583 件 32.4 件/科目
電気電子学科 21 科目	0 件	1 件	1,274 件	5 件	1,280 件 61.0 件/科目
専門基礎科目 34 科目	490 件	147 件	472 件	150 件	1,259 件 37.0 件/科目
計 120 科目	2,823 件 4.87 件/人	731 件 3.69 件/人	1,748 件 4.32 件/人	162 件 1.12 件/人	5,464 件 45.5 件/科目

2-2. 2005 年度前期

(a) 対象科目

2005 年度前期授業アンケートでは、当該学期に開講された、「1 回生を対象」とした工学部全学科（地球工学科・建築学科・物理工学科・電気電子工学科・工業化学科・情報学科）関連の、講義、実験・実習・演習を含むすべての授業科目を対象科目とした。その結果、当初、工学部から指定された該当科目は 113 科目であった。1 回生を対象としたことから、全学共通科目 B 群科目として実施されている専門基礎科目が多くを占めることになった。

授業アンケートの未実施科目は 4 科目（建築学科 1 科目、専門基礎科目 3 科目）に止まり、109 科目において授業アンケートが実施された。その内訳は、表 2 のとおりである。

なお、専門基礎科目は、工学部の各学科学生が受講するように指定されているが、その内訳は、地球工学科指定 18 科目、建築学科指定 6 科目、物理工学科指定 16 科目、電気電子工学科指定 7 科目、工業化学科指定 17 科目、情報学科指定 5 科目、複数学科共通指定 3 科目、その他に図学が 4 科目含まれている。

表 2 授業アンケートの実施科目

提供部局 授業種類	地球工 学科	建築 学科	物理工 学科	電気電子 工学科	工業化 学科	情報 学科	専門 基礎	計
講義科目	1	1	2	1	4	3	61	73
実験・実習・演習	4	2	5	4	4	2	15	36
計	5	3	7	5	8	5	76	109

(b) 回答学生

2004 年度後期と同様に、2005 年度前期の授業アンケートに回答した学生も、対象となった科目のアンケート実施授業時間に出席していた学生である。

その内、授業アンケートに 1 科目でも回答し、かつ、成績データとマージが可能であった工学部学生数は 1,323 人となっている。その回答学生についての内訳は、以下のとおりである。

まず、学科別にみると、地球工学科 258 人、建築学科 110 人、物理工学科 337 人、電気電子工学科 179 人、化学工業学科 315 人、情報学科 123 人、その他、科目等履修生が 1 人であった。また、2005 年度は「学年」に関する情報を直接入手することができなかったが、学生番号の中央の 2 桁に入学年度が示されているので、入学年度（編入学などがあるので学年と必ずしも一対一対応はしない）をみてみると、平成 17 年度入学生は 970 人（73.3%）で、そのほとんどが 1 回生であるはずである。ちなみに、平成 16 年度入学生 256 人、平成 15 年度入学生 53 人、平成 14 年度以降の入学生 44 人であった。性別に関しては、マークシートに記入されたものに基づくことになるが、男子 1,216 人、女子 98 人（欠損値 9）で、男子学生が 9 割を超える率となっている。

(c) 科目×学生データ —— マークシート単位のデータ

授業アンケートの回答マークシートは、6,058 件であった。このうち、学生番号が未記入のものや、誤マークのもの、また、「1234567890」など意図的に違う学生番号をマークしたもののなど、学生番号が欠損値となるマークシートが、2004 年度後期同様多少含まれていた。2005 年度前期は、授業アンケート実施要項に、学生番号の記入ミスがないように強調したこともあってか、若干、誤記入は減っていた。

なお、工学部から提供を受けた成績データは、対象科目の登録工学部学生の当該科目の成績データ 8,834 件、工学部 1 回生の全学生の 2005 年度後期の全成績データ 13,981 件である。両者を合わせて、15,683 件の成績データについて、学生番号、及び、科目コードをキーに、成績データと授業アンケートのデータをマージしている。その結果、学生番号が不備などの理由で成績とマージできないデータ、成績データが得られなかった工学部以外の学生及び工学部で当該科目に登録されていないと思われる学生のデータなど、386 件のデータが、成績データとのマージができなかった。成績データとマージできた（学生番号が正しく判別できた）データは、5,672 件であった。

その内訳は、表 3 に示すとおりである。所属学科の提供科目の回答が多くなっている他、専門基礎科目も同様に受講していることがわかる。また、1 回生対象の授業であることから、学生も 1 回生が中心であるが、回収されたマークシート単位にみると、1 回生 5,225 件、2 回生 325 件、3 回生 67 件、4 回生 55 件となっている。

表 3 科目の開講部局と所属学科別回答学生数（2005年度前期）

学生所属 開講学科	地球工学 258人	建 築 110人	物理工 337人	電気電子 179人	工業化学 315人	情 報 123人	科目履修 1人	合 計 1,323人
地球工学科 5科目	339	0	0	0	0	0	0	339 <67.8>
建築学科 3科目	0	55	0	0	0	0	0	55 <18.3>
物理工学科 7科目	0	0	361	0	0	0	0	361 <51.6>
電気電子工学科 5科目	0	0	1	366	0	0	0	367 <73.4>
工業化学科 8科目	0	0	0	0	426	0	0	426 <53.3>
情報学科 5科目	0	0	0	2	0	289	0	291 <58.2>
専門基礎科目 76科目	921	210	1,098	376	990	237	1	3,833 <50.4>
合 計 109科目	1,260 (4.9)	265 (2.4)	1,460 (4.3)	744 (4.3)	1,416 (4.5)	526 (4.3)	1 (1.0)	5,672 <52.0> (4.3)

(注) 下段の () 内の数値は、一人当たりの回答数（下段合計を上段人数で除したもの）、また、右列の < > 内の数値は、一科目あたりの回答者数（右列合計を左列科目数で除したもの）。

3. 工学部学生の評定項目の基礎集計

3-1. 基礎集計結果

表4～表6に、工学部の学生で、成績データとマージできたデータについての評定項目等に関する基礎集計表を、2004年度後期、2005年度前期・講義科目、2005年度後期・実験棟科目の順で掲げた。

項目の平均値から、工学部の授業の全体的な特徴を浮き彫りにすることができる。例えば、学生の学習状況についてみると、課題にはきちんと取り組むが、予習・復習の励行や、関連図書を積極的に利用に関しては比較的低い平均値になっている。自学自習の習慣は概して学生に身についていないと見ることができよう。

2005年度前期には、講義科目と実験等科目で別のアンケートを行っているが、共通項目において平均値による比較が可能である。全般的に、自らが体を動かさざるを得ない実験等科目の方が平均値が高い傾向にあることが窺えよう。

なお、成績得点とあるのは、成績が点数でついている科目については、その得点をそのまま採用した。ただし、「0点」の場合は、未受験を表していることも少なくないので、点数は欠損値扱いとした。また、相関係数を算出する際にできるだけ多くのデータを確保するための便宜的方法として、成績が評定のみで付けられている場合には、例えば、「A」評定を88点、「B」評定を75点、「C」評定を65点、その他、不合格者等を40点などと換算した。その他では、「P」を80点などとしている。逆に、成績評定は、90点以上を「@」、80～90点を「A」、70～80点を「B」、60～70点を「C」、その他、不合格や未受検者はすべて「D」とすることにした。

3-2. 成績との関連性

成績との関連については、表7～9に、相関係数と、各評定段階ごとの項目平均値を示すことによって見るることができる。

全般的には、成績が高いほど、項目の評定値が若干高くなっているが、相関係数は大きな値(± 1 に近いほど関連性が大きく、-の場合は一方が大きくなると他方が小さくなる負の関係にあることが示唆される)とはなっていない。一方、成績段階ごとの評定平均値は、項目によって、直線的な変化が見られる項目もあり、成績が高いほど評定平均が高いという傾向が若干見られると言ってよいであろう。

このように、授業アンケートの評定項目の統計量は、他のデータと付き合わせていくことで、授業の特徴がイメージできたり、改善へのヒントを導き出すことも可能であるので、さらに分析を深めると共に、統計指標の解釈に慣れていくことも肝要であろう。

表4 工学部学生 (N=5,464) を対象とする
 評定項目等に関する基礎集計 (2004年度後期)

	有効 回答数	平均値	標準 偏差	9割上 5%	7~9 4%	5~7 3%	3~5 2%	3割下 1%
出席率	5313	4.32	1.08	62.5	19.6	9.4	4.6	4.0
性別	5365	1.11	0.31	(女子の割合 : 10.6%)				
年齢	5285	20.62	1.47					
成績 (得点)	5189	74.63	18.08	@%	A%	B%	C%	D・X%
(評定)	5464			21.7	21.3	20.1	19.7	17.1
		有効 回答数	標準 平均値 偏差	あてはまる 4%	←あてはまらない 3%	←あてはまらない 2%	←あてはまらない 1%	
①自分自身の学習状況等について								
(1) シラバスを参考にした	5447	2.25	1.03	13.9	26.7	30.0	29.4	
(2) 授業の予復習をするように努めた	5451	2.14	0.88	6.9	25.9	41.6	25.6	
(3) 授業中は授業に集中していた	5446	2.91	0.84	25.0	46.2	23.2	5.7	
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	5434	2.94	0.95	33.2	37.1	20.7	9.0	
(5) 関連ある図書などを積極的に読んだ	5446	2.14	0.92	8.6	24.9	38.9	27.6	
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	5449	2.43	0.98	15.0	33.2	31.1	20.7	
(7) 教師に疑問点などを積極的に質問するように努めた	5450	1.86	0.88	5.9	15.5	37.9	40.8	
②授業の内容・方法等について								
(8) 授業は理解できた	5446	2.79	0.78	15.7	53.7	24.5	6.1	
(9) 授業の目的が示されていた	5444	2.98	0.79	25.6	50.6	19.7	4.1	
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	5443	2.85	0.83	21.9	46.7	25.6	5.7	
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	5438	2.76	0.87	21.3	40.3	31.0	7.3	
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	5435	2.37	0.92	13.2	28.5	40.5	17.8	
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	5407	2.70	0.88	19.5	40.5	30.8	9.2	
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	5436	2.72	0.85	18.5	43.3	30.3	7.8	
(15) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	5436	2.92	0.90	29.2	41.4	22.1	7.4	
(16) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	5436	3.06	0.88	35.8	41.2	16.5	6.5	
(17) 授業内容は体系的に整理されていた	5440	3.03	0.80	29.5	47.8	18.7	4.0	
(18) 教師の授業に対する熱意を感じた	5442	3.00	0.81	28.0	48.6	18.9	4.5	
(19) 授業はノートをとりやすかった	5441	2.59	0.98	20.6	32.5	31.7	15.2	
(20) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	5435	2.85	0.87	24.7	41.9	26.8	6.6	
(21) クラスサイズ(受講者数)は適切だった	5435	3.13	0.83	36.3	45.2	13.4	5.0	
(22) 教室環境に問題はなかった	5443	3.08	0.88	36.2	42.2	15.0	6.7	
③授業全体を通して得られた成果等について								
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	5432	2.77	0.83	19.5	44.8	29.2	6.5	
(24) カリキュラムの中での位置づけがよくわかる授業だった	5433	2.84	0.79	20.0	48.8	26.5	4.7	
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	5433	2.81	0.85	21.8	43.0	29.1	6.1	
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	5429	2.84	0.83	22.0	45.2	27.3	5.5	
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	5429	2.55	0.89	15.5	36.2	36.2	12.0	
(28) 今後の学習のために必要な学力が身に付いたと思う	5432	2.67	0.81	14.1	45.8	32.7	7.3	
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	5429	2.74	0.85	18.6	44.6	29.1	7.7	
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	5422	2.96	0.80	26.0	48.7	21.1	4.2	

表5 工学部学生 (N=3,915) を対象とする
講義科目評定項目等に関する基礎集計 (2005年度前期)

	有効 回答数	平均値	標準 偏差	100% 5%	9~ 4%	7~9 3%	5~7 2%	5割下 1%
出席率	3823	4.21	1.11	55.7	23.6	11.2	5.0	4.4
性別	3778	1.08	0.27	(女子の割合: 7.9%)				
年齢	3822	18.81	0.96					
成績 (得点)	3877	74.63	16.77	@%	A%	B%	C%	D・X%
(評定)	3915			18.3	26.8	23.4	19.3	12.2
	有効 回答数	平均値	標準 偏差	あてはまる 4%	←あてはまらない 3%	←あてはまらない 2%	←あてはまらない 1%	
①自分自身の学習状況等について								
(1) シラバスを参考にした	3905	2.00	1.00	9.3	21.9	28.0	40.8	
(2) 授業の予復習をするように努めた	3902	2.15	0.90	6.6	29.2	36.4	27.8	
(3) 授業中は授業に集中していた	3901	2.74	0.86	19.1	44.5	27.9	8.5	
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	3897	3.06	0.92	37.8	37.9	16.8	7.5	
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	3894	2.02	0.92	7.1	21.6	37.4	33.8	
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	3903	2.64	0.98	20.5	38.4	25.4	15.7	
(7) 教員に疑問点などを積極的に質問するように努めた	3901	1.83	0.86	4.4	16.6	37.2	41.9	
②授業の内容・方法等について								
(8) 授業は理解できた	3908	2.65	0.82	12.5	48.8	29.3	9.3	
(9) 授業の目的が示されていた	3904	2.75	0.85	18.0	46.9	26.9	8.3	
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	3904	2.68	0.86	16.9	43.6	30.4	9.1	
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	3895	2.65	0.87	17.0	40.4	33.4	9.2	
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	3896	2.23	0.92	10.1	26.1	40.6	23.3	
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	3894	2.58	0.93	17.2	37.8	31.3	13.8	
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	3894	2.42	0.86	10.3	35.6	39.9	14.2	
(15) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	3897	2.83	0.95	26.5	41.1	21.2	11.2	
(16) 教師の授業に対する熱意を感じた	3897	2.85	0.84	22.4	46.6	24.2	6.8	
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	3903	2.67	0.91	19.9	37.7	31.9	10.4	
(18) クラスサイズ(受講者数)は適切だった	3902	3.04	0.86	32.9	44.8	15.8	6.4	
(19) 教室環境に問題はなかった	3897	3.02	0.90	34.1	41.1	17.6	7.2	
(20) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	3898	2.77	0.94	24.3	39.0	26.1	10.6	
(21) 授業内容は体系的に整理されていた	3898	2.84	0.85	22.3	46.6	23.7	7.4	
(22) 授業はノートをとりにやすかった	3899	2.47	0.99	17.6	31.1	32.4	18.9	
③授業全体を通して得られた成果等について								
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	3870	2.61	0.86	14.8	41.6	33.7	10.0	
(24) カリキュラムの中での位置づけがよくわかる授業だった	3869	2.69	0.84	16.6	43.9	31.6	8.0	
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	3868	2.91	0.88	27.8	42.0	23.6	6.6	
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	3869	2.82	0.89	24.3	41.4	26.3	8.0	
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	3869	2.43	0.93	14.1	31.7	36.8	17.3	
(28) 今後の学習のために必要な知識や技能が身に付いたと思う	3868	2.66	0.87	16.2	43.7	30.0	10.1	
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	3869	2.56	0.89	15.2	37.9	34.6	12.3	
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	3867	2.86	0.86	23.9	45.9	22.8	7.4	

表6 工学部学生 (N=1,757) を対象とする
実験・実習・演習科目評定項目等に関する基礎集計 (2005年度前期)

	有効 回答数	平均値	標準 偏差	100% 5%	9~ 4%	7~9 3%	5~7 2%	5割下 1%
出席率	1713	4.65	0.70	74.8	17.4	5.8	1.6	0.4
性別	1709	1.07	0.25	(女子の割合: 7.0%)				
年齢	1712	18.73	0.85					
成績 (得点)	1748	78.71	12.17	@%	A%	B%	C%	D・X%
(評定)	1757			15.8	20.9	16.4	9.2	37.7
				有効 回答数	標準 平均値	標準 偏差	あてはまる 4%	あてはまらない 3% 2% 1%
①自分自身の学習状況等について								
(1) シラバスを参考にした	1751	2.01	1.03	10.2	22.7	24.6	42.5	
(2) 授業の予復習をすように努めた	1750	2.40	1.00	14.5	34.3	27.8	23.5	
(3) この授業の課題をこなすために他の授業がおろそかになった	1747	2.16	1.05	14.4	21.3	30.0	34.3	
(4) 課題に積極的に取り組んだ	1752	3.26	0.79	43.8	42.1	10.4	3.7	
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	1751	1.92	0.92	6.8	18.8	34.3	40.1	
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	1752	3.08	0.93	38.8	39.4	13.2	8.6	
(7) 教員やT Aに疑問点などを積極的に質問するように努めた	1752	2.72	1.00	26.2	33.6	26.3	13.9	
②授業の内容・方法等について								
(8) 授業は理解できた	1754	3.00	0.81	27.4	50.9	16.4	5.4	
(9) 授業の目的が示されていた	1754	3.11	0.83	35.7	43.8	16.0	4.5	
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	1750	2.90	0.83	24.5	46.6	23.4	5.5	
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	1753	3.11	0.82	35.4	45.0	14.9	4.7	
(12) 質問・発言などがしやすかった	1753	2.91	0.91	29.7	39.4	23.6	7.4	
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	1751	2.92	0.89	28.0	44.0	20.3	7.7	
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	1747	2.54	0.84	12.3	39.4	38.0	10.4	
(15) プリント、教科書・参考書などが学習の助けになった	1752	3.06	0.93	37.9	38.1	15.7	8.3	
(16) 教員やT Aの授業に対する熱意を感じた	1752	2.84	0.81	20.7	48.9	24.6	5.8	
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	1750	2.71	0.94	21.9	38.4	28.1	11.5	
(18) クラスサイズ (受講者数) やグループサイズは適切だった	1752	3.32	0.75	46.3	41.9	9.0	2.8	
(19) 教室環境に問題はなかった	1751	3.26	0.82	45.9	38.5	11.5	4.1	
(20) 利用する設備や機器は使いやすかった	1749	2.95	0.85	28.0	44.6	21.8	5.5	
(21) 教員やT Aによる助言が適切に行われた	1748	3.08	0.79	31.4	49.2	15.1	4.3	
(22) レポートやプレゼンテーションの指導が十分なされていた	1747	2.76	0.87	19.7	45.0	26.3	8.9	
③授業全体を通して得られた成果等について								
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	1745	3.39	0.77	53.4	34.6	9.3	2.8	
(24) レポートやプレゼンテーションの力が身についた	1741	2.73	0.97	23.7	38.6	24.5	13.2	
(25) 自分の専門分野のイメージがつかめた	1742	2.36	0.92	11.9	30.8	38.3	18.9	
(26) 自分の将来の進路がいつそう明確になった	1739	2.09	0.87	7.4	20.4	45.7	26.5	
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	1738	2.63	0.93	18.4	40.2	28.0	13.5	
(28) 課題に粘り強く取り組む態度が身についた	1741	2.87	0.84	22.9	46.9	23.9	6.3	
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	1742	2.65	0.88	16.4	43.2	29.4	11.0	
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	1743	3.11	0.82	34.1	47.4	13.4	5.1	

表7 工学部学生 (N=5,464) を対象とする
 評定項目と成績との関連性 (2004年度後期)

度 数	平均値	得点と の相関	成績評定ごとの項目平均				
			@	A	B	C	D・X
成績得点	74.63	1.000	95.88	83.88	74.20	63.54	38.92
出席率	4.32	0.126	4.45	4.50	4.38	4.28	3.91
①自分自身の学習状況等について							
(1) シラバスを参考にした	2.25	0.008	2.29	2.28	2.22	2.21	2.25
(2) 授業の予復習をするように努めた	2.14	0.112	2.30	2.19	2.15	2.11	1.90
(3) 授業中は授業に集中していた	2.91	0.116	3.09	2.93	2.91	2.85	2.71
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	2.94	0.169	3.09	3.12	3.02	2.88	2.53
(5) 関連ある図書などを積極的に読んだ	2.14	0.091	2.28	2.16	2.18	2.12	1.95
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	2.43	0.127	2.61	2.48	2.46	2.34	2.17
(7) 教師に疑問点などを積極的に質問するように努めた	1.86	0.130	2.08	1.88	1.86	1.80	1.65
②授業の内容・方法等について							
(8) 授業は理解できた	2.79	0.180	2.97	2.89	2.81	2.73	2.48
(9) 授業の目的が示されていた	2.98	0.118	3.11	3.04	2.98	2.93	2.80
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	2.85	0.100	2.93	2.94	2.88	2.78	2.67
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	2.76	0.121	2.89	2.82	2.78	2.73	2.52
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	2.37	0.141	2.59	2.43	2.34	2.29	2.15
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	2.70	0.097	2.83	2.76	2.67	2.70	2.50
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	2.72	0.117	2.90	2.77	2.70	2.64	2.57
(15) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	2.92	0.058	3.00	2.95	2.91	2.90	2.83
(16) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	3.06	0.041	3.05	3.15	3.07	3.08	2.93
(17) 授業内容は体系的に整理されていた	3.03	0.060	3.07	3.08	3.04	3.03	2.89
(18) 教師の授業に対する熱意を感じた	3.00	0.056	3.07	3.03	2.98	3.01	2.88
(19) 授業はノートをとりにやすかった	2.59	0.046	2.64	2.64	2.56	2.59	2.45
(20) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	2.85	0.094	2.95	2.92	2.82	2.80	2.71
(21) クラスサイズ(受講者数)は適切だった	3.13	0.065	3.21	3.19	3.11	3.09	3.02
(22) 教室環境に問題はなかった	3.08	0.042	3.15	3.08	3.07	3.06	3.00
③授業全体を通して得られた成果等について							
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	2.77	0.144	2.96	2.81	2.81	2.69	2.55
(24) カリキュラムの中での位置づけがよくわかる授業だった	2.84	0.093	2.97	2.89	2.81	2.81	2.70
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	2.81	0.102	2.97	2.86	2.77	2.74	2.64
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	2.84	0.120	3.00	2.90	2.83	2.75	2.66
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	2.55	0.145	2.77	2.61	2.53	2.43	2.37
(28) 今後の学習のために必要な学力が身に付いたと思う	2.67	0.122	2.78	2.77	2.67	2.63	2.44
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	2.74	0.141	2.92	2.82	2.70	2.65	2.56
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	2.96	0.147	3.13	3.07	2.96	2.88	2.73

表8 工学部学生 (N=3,915) を対象とする
講義科目評定項目等に関する基礎集計 (2005年度前期)

度 数	平均値	得点と の相関	成績評定ごとの項目平均				
			@	A	B	C	D・X
度 数			715	1051	916	756	477
成績得点	78.71	1.000	94.00	84.50	74.30	63.66	39.02
出席率	4.65	0.316	4.62	4.42	4.26	3.92	3.49
①自分自身の学習状況等について							
(1) シラバスを参考にした	2.00	0.020	1.96	2.08	1.96	1.98	1.97
(2) 授業の予復習をするように努めた	2.15	0.118	2.32	2.17	2.15	2.05	1.99
(3) 授業中は授業に集中していた	2.74	0.110	2.87	2.77	2.77	2.66	2.57
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	3.06	0.313	3.38	3.26	3.07	2.83	2.48
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	2.02	0.093	2.12	2.09	1.99	1.93	1.90
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	2.64	0.066	2.69	2.63	2.73	2.59	2.46
(7) 教員に疑問点などを積極的に質問するように努めた	1.83	0.105	1.96	1.87	1.81	1.81	1.66
②授業の内容・方法等について							
(8) 授業は理解できた	2.65	0.199	2.91	2.70	2.63	2.53	2.35
(9) 授業の目的が示されていた	2.75	0.129	2.90	2.79	2.76	2.61	2.59
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	2.68	0.143	2.90	2.70	2.68	2.60	2.46
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	2.65	0.047	2.70	2.62	2.70	2.68	2.53
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	2.23	0.023	2.22	2.25	2.23	2.24	2.18
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	2.58	0.020	2.60	2.53	2.65	2.62	2.51
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	2.42	0.117	2.52	2.51	2.42	2.31	2.26
(15) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	2.83	0.054	2.86	2.85	2.88	2.76	2.74
(16) 教師の授業に対する熱意を感じた	2.85	0.066	2.90	2.86	2.85	2.84	2.72
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	2.67	0.018	2.62	2.70	2.69	2.70	2.60
(18) クラスサイズ(受講者数)は適切だった	3.04	0.034	2.97	3.13	3.05	3.03	2.97
(19) 教室環境に問題はなかった	3.02	0.030	3.02	3.05	3.02	3.02	2.96
(20) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	2.77	0.065	2.87	2.76	2.80	2.75	2.62
(21) 授業内容は体系的に整理されていた	2.84	0.048	2.94	2.81	2.85	2.81	2.78
(22) 授業はノートをとりにやすかった	2.47	0.060	2.59	2.45	2.48	2.43	2.40
③授業全体を通して得られた成果等について							
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	2.61	0.145	2.77	2.66	2.63	2.52	2.37
(24) カリキュラムの中での位置づけがよくわかる授業だった	2.69	0.122	2.87	2.70	2.70	2.59	2.54
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	2.91	0.135	3.14	2.94	2.91	2.75	2.74
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	2.82	0.173	3.07	2.88	2.85	2.64	2.56
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	2.43	0.175	2.67	2.52	2.39	2.25	2.21
(28) 今後の学習のために必要な知識や技能が身に付いたと思う	2.66	0.170	2.90	2.68	2.68	2.53	2.43
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	2.56	0.201	2.84	2.65	2.54	2.35	2.31
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	2.86	0.212	3.14	2.93	2.86	2.70	2.55

資 料

個人情報取扱業務に関する覚書

株式会社ジイズスタッフ（以下「甲」という）と京都大学高等教育研究開発推進センター（以下「乙」という）は、乙が個人情報を含む業務を甲に委託することに伴い、当該個人情報の取扱に関して以下のとおり合意する。

第1条（定義）

本覚書における用語の意義は、次の各号の定めによる。

1) 個人情報

個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日、その他の記述、又は個人別に付された番号、記号、その他の符号、画像、若しくは音声により、当該個人を識別できるもの。（当該情報のみでは識別できないが、他の情報と容易に照合することができ、それにより当該個人を識別できるものを含む。）

但し、対象とする個人情報は、その全部または一部が電子計算機、光学式情報処理装置等の自動処理システムにより処理されているもの、及び、自動処理システムによる処理を行うことを目的として書面等により処理されているものも含む。

2) 情報主体

一定の情報によって識別される、又は識別され得る個人

3) 利用

事業者が当該事業者内で個人情報を処理すること。

4) 提供

事業者が当該事業者外のものに自ら保有する個人情報を利用可能にすること。

5) 預託

事業者が当該事業者外のものに情報処理を委託するなどのために自ら保有する個人情報を預けること。

第2条（個人情報に関する秘密保持）

1. 甲は、乙の書面による事前の承諾なしに、本覚書に関連して乙から預託、提供された一切の個人情報を第三者に預託、提供してはならない。
2. 甲は、乙から預託、提供された個人情報を乙の許諾した範囲内で使用するとともに、乙の書面による事前の承諾なしに、個人情報を複製、修正または変更してはならない。
3. 甲は、個人情報取扱業務に関する管理責任者を定め、個人情報の授受及び管理は管理責任者のもとで実施するとともに、対象業務に従事する担当者に対して個人情報保護を遵守させなければならない。

4. 甲は、乙から預託、提供された個人情報を含む資料等を社外に持ち出さず、厳正に管理しなければならない。
5. 甲は、乙から預託、提供された個人情報を含む資料等を損傷しないよう、善良な管理者の注意を払わなければならない。

第3条（個人情報取扱業務再委託に関する事項）

1. 甲は、乙の書面による事前の承諾なしに、個人情報取扱業務を第三者に再委託してはならない。
2. 甲は、前項に基づき、乙の承諾を得て対象業務を第三者に再委託する場合、当該第三者に対しても本覚書の個人情報保護に関する各事項を遵守させるものとする。

第4条（賠償責任）

甲は、第2条5項の注意義務を怠り、乙から預託を受けた資料等を損傷、又は紛失したとき、また、個人情報を漏洩したときには、賠償する責を負うものとする。

第5条（業務終了時の個人情報の返却及び消去）

個人情報取扱業務が終了したとき、業務遂行上不要となったとき、又は乙が返却を求めたときには、甲は、乙から甲に預託並びに提供した個人情報を複写も含めて直ちに返却又は消去しなければならない。なお、消去の場合にはその方法について甲は乙の了承を得るとともに消去結果について甲は乙に報告しなければならない。

本覚書締結の証として本書2通を作成し、甲乙双方調印の上各自1通保有する。

平成 年 月 日

(甲) 東京都豊島区高田3-16-9 小倉ビル3F
株式会社ジイズスタッフ
代表取締役 玉川 陽介

(乙)

平成17年6月

各位

京都大学高等教育研究開発推進センター
センター長 丸山 正樹
京都大学工学部
学部長 荒木 光彦

「授業アンケート」実施ご協力をお願い

昨年度、「特色ある大学教育支援プログラム」に本学高等教育研究開発推進センターの取組「相互研修型FDの組織化による教育改善」（申請者：田中每実）が採択されました。この取組では、工学部の教育改善を工学部とセンターが連携して進めていくことが柱の一つとなっており、その具体的な方法として、「授業アンケート」を実施し、それを授業改善・カリキュラム改善に生かしていくことが計画されています。

昨年度後期は、まず、地球工学科、建築学科、電気電子工学科の3学科の講義科目について実施いたしました。今年度よりあらたに、工学部学生向けの授業（講義、実験・実習、演習のすべて）について、平成17年度入学生を対象に学年進行で4年間実施していくことが、工学部新工学教育プログラム実施検討委員会において決定されました。

この「授業アンケート」は、教員にとっては授業をふり返る道具であり、学生にとっては自分たちの学習をふり返る手段となることを意図して作られたものです。教員の教育力を評価したり管理したりするものではありません。

工学部の学士課程教育全体にわたる授業改善・カリキュラム改善を進めていくためには、専門科目だけでなく、専門基礎科目においても、このようなアンケートを実施することが不可欠であると考えております。

具体的な実施案は下記の通りです。

- ・実施対象：工学部 新1回生を主たる対象とする 専門科目、及び、専門基礎科目（実験・実習・演習などを含みます。）
- ・アンケート項目：添付資料をご参照ください。
- ・実施日：授業の最終回（無理な場合は、その前の回にお願い致します。）
- ・所要時間：10～15分
- ・結果のフィードバック：学生の氏名が特定できない形で、結果をお返しします（キーワード、自由記述欄を含む。）
- ・結果の公表：統計結果を公表する際は、授業者が特定できないように致します。

何卒このアンケートの趣旨をご理解くださり、アンケートの実施にご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご質問・ご意見等がございましたら、高等教育研究開発推進センター大塚雄作教授（otsuka@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-9368）、あるいは、松下佳代教授（kmatsu@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-3085）までお願い致します。

以上

工学部 授業アンケート（講義）

科目名	曜日・時限	氏名																
記入上の注意	1. 氏名・学生番号等を所定の欄に記述し、さらに学生番号・年齢・性別にはマークをしてください。なお、個人名は決して表出することはありません。 2. 授業担当の教員には、成績評価完了後に、個人名等の情報は除かれてフィードバックされますので、回答内容が個人の成績評価等に影響を及ぼすことも一切ありません。 3. H～2Bの鉛筆・シャープペンシルを使ってください。 4. 回答が無効にならないよう下の良い例にならって、正しくマークしてください。	学 生 番 号										年齢	性別					
		<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	男
		<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	女
		<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	
		<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	
		<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	
		<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	
		<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	
		<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	
		<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>			
記入例	良い例	—	悪い例	∨	○	⇔												

■ 今学期の本授業（講義・実験・演習等）にあなたはどの程度出席しましたか。

<5> 10割	<4> 9割以上	<3> 9～7割	<2> 7～5割	<1> 5割未満
------------	-------------	-------------	-------------	-------------

■ 今学期の本授業の学習を振り返ってみて、以下のそれぞれの項目について、あなた自身はどの程度あてはまるとお考えですか。4段階で評定して該当する欄にマークしてください。

① 自分自身の学習状況等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(1) シラバスを参考にした	<4>	<3>	<2>	<1>
(2) 授業の予復習をするように努めた	<4>	<3>	<2>	<1>
(3) 授業中は授業に集中していた	<4>	<3>	<2>	<1>
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	<4>	<3>	<2>	<1>
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	<4>	<3>	<2>	<1>
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	<4>	<3>	<2>	<1>
(7) 教員に疑問点などを積極的に質問するように努めた	<4>	<3>	<2>	<1>

② 授業の内容・方法等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(8) 授業は理解できた	<4>	<3>	<2>	<1>
(9) 授業の目的が示されていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	<4>	<3>	<2>	<1>
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	<4>	<3>	<2>	<1>
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	<4>	<3>	<2>	<1>
(15) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	<4>	<3>	<2>	<1>
(16) 教員の授業に対する熱意を感じた	<4>	<3>	<2>	<1>
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(18) クラスサイズ（受講者数）は適切だった	<4>	<3>	<2>	<1>
(19) 教室環境に問題はなかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(20) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(21) 授業内容は体系的に整理されていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(22) 授業はノートをとりにやすかった	<4>	<3>	<2>	<1>

裏面に続きます↓

■ アンケートの目的と利用

この授業アンケートの実施は、京都大学高等教育研究開発推進センター（以下、センター）が支援しています。センターは、大学教育に関わる研究に基づいて、京都大学の教育活動を支援・促進するためのさまざまな活動・取組を行っています。

本アンケートは、その一環として、皆さんにこの授業の学習を振り返っていただくことを通して、授業やカリキュラムの改善に生かしていくためのものです。氏名、学生番号を記入していただくのは、他の授業アンケートや成績等との関連性の分析のためです。

アンケートの回答は、クラスごとの回収封筒に直接入れていただき、封をしてセンターに送付された後は、コンピュータ処理により統計的に分析するなど、個人名が表出することは決してありません。授業担当の教員には成績評価完了後に、個人名等の情報は除かれて、自由記述回答も含めて、コンピュータ出力された結果がセンターからフィードバックされますので、回答内容が個人の成績評価等に影響を及ぼすことも一切ありません。

また、この学習の振り返りは、皆さんご自身の学びを深める機会としても位置づけています。

以上の趣旨をふまえて、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

（京都大学高等教育研究開発推進センター）

③ 授業全体を通して得られた成果等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	<4>	<3>	<2>	<1>
(24) カリキュラムの中での位置づけがよくわかる授業だった	<4>	<3>	<2>	<1>
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	<4>	<3>	<2>	<1>
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	<4>	<3>	<2>	<1>
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	<4>	<3>	<2>	<1>
(28) 今後の学習のために必要な知識や技能が身についたと思う	<4>	<3>	<2>	<1>
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	<4>	<3>	<2>	<1>
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	<4>	<3>	<2>	<1>

④ 学科・教員設定項目	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(31)	<4>	<3>	<2>	<1>
(32)	<4>	<3>	<2>	<1>

■ この授業を通して、重要であると思った概念・理論・キーワード等を以下の左欄に5つあげてください。また、それぞれを自分がどの程度理解していると思うか右欄にマークしてください。

1.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
2.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
3.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
4.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
5.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解

■ この授業についての意見・感想・要望を以下の欄に記述してください。

★記入ミス等がないか、もう一度ご確認ください。ご協力ありがとうございました。

工学部 授業アンケート（実験・実習・演習）

科目名	曜日・時限	氏名	学 生 番 号										年齢	性別				
記入上の注意	1. 氏名・学生番号等を所定の欄に記述し、さらに学生番号・年齢・性別にはマークをしてください。なお、個人名は決して表出することはありません。 2. 授業担当の教員には、成績評価完了後に、個人名等の情報は除かれてフィードバックされますので、回答内容が個人の成績評価等に影響を及ぼすことも一切ありません。 3. H～2Bの鉛筆・シャープペンシルを使ってください。 4. 回答が無効にならないよう下の良い例にならって、正しくマークしてください。																	
		<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	<1>	男
		<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	<2>	女
		<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	<3>	
		<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	<4>	
		<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	<5>	
		<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	<6>	
		<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	<7>	
		<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	<8>	
		<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	<9>	
<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>	<0>			
記入例	良い例	悪い例																

■ 今学期の本授業（講義・実験・演習等）にあなたはどの程度出席しましたか。

<5> 10割	<4> 9割以上	<3> 9～7割	<2> 7～5割	<1> 5割未満
------------	-------------	-------------	-------------	-------------

■ 今学期の本授業の学習を振り返ってみて、以下のそれぞれの項目について、あなた自身はどの程度あてはまるとお考えですか。4段階で評定して該当する欄にマークしてください。

① 自分自身の学習状況等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(1) シラバスを参考にした	<4>	<3>	<2>	<1>
(2) 授業の予復習をするように努めた	<4>	<3>	<2>	<1>
(3) この授業の課題をこなすために他の授業がおろそかになった	<4>	<3>	<2>	<1>
(4) 課題に積極的に取り組んだ	<4>	<3>	<2>	<1>
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	<4>	<3>	<2>	<1>
(6) 疑問点など友人に聞いたり話し合ったりした	<4>	<3>	<2>	<1>
(7) 教員やTAに疑問点などを積極的に質問するように努めた	<4>	<3>	<2>	<1>

② 授業の内容・方法等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(8) 授業は理解できた	<4>	<3>	<2>	<1>
(9) 授業の目的が示されていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(12) 質問・発言などがしやすかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(13) 学生が提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	<4>	<3>	<2>	<1>
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	<4>	<3>	<2>	<1>
(15) プリント、教科書・参考書などが学習の助けになった	<4>	<3>	<2>	<1>
(16) 教員やTAの授業に対する熱意を感じた	<4>	<3>	<2>	<1>
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	<4>	<3>	<2>	<1>
(18) クラスサイズ（受講者数）やグループサイズは適切だった	<4>	<3>	<2>	<1>
(19) 教室環境に問題はなかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(20) 利用する設備や機器は使いやすかった	<4>	<3>	<2>	<1>
(21) 教員やTAによる助言が適切に行われた	<4>	<3>	<2>	<1>
(22) レポートやプレゼンテーションの指導が十分なされていた	<4>	<3>	<2>	<1>

裏面に続きます↓

■ アンケートの目的と利用

この授業アンケートの実施は、京都大学高等教育研究開発推進センター（以下、センター）が支援しています。センターは、大学教育に関わる研究に基づいて、京都大学の教育活動を支援・促進するためのさまざまな活動・取組を行っています。

本アンケートは、その一環として、皆さんにこの授業の学習を振り返っていただくことを通して、授業やカリキュラムの改善に生かしていくためのものです。氏名、学生番号を記入していただくのは、他の授業アンケートや成績等との関連性の分析のためです。

アンケートの回答は、クラスごとの回収封筒に直接入れていただき、封をしてセンターに送付された後は、コンピュータ処理により統計的に分析するなど、個人名が表出することは決してありません。授業担当の教員には成績評価完了後に、個人名等の情報は除かれて、自由記述回答も含めて、コンピュータ出力された結果がセンターからフィードバックされますので、回答内容が個人の成績評価等に影響を及ぼすことも一切ありません。

また、この学習の振り返りは、皆さんご自身の学びを深める機会としても位置づけています。

以上の趣旨をふまえて、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

（京都大学高等教育研究開発推進センター）

③ 授業全体を通して得られた成果等について	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	<4>	<3>	<2>	<1>
(24) レポートやプレゼンテーションの力が身についた	<4>	<3>	<2>	<1>
(25) 自分の専門分野のイメージがつかめた	<4>	<3>	<2>	<1>
(26) 自分の将来の進路がいっそう明確になった	<4>	<3>	<2>	<1>
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	<4>	<3>	<2>	<1>
(28) 課題に粘り強く取り組む態度が身についた	<4>	<3>	<2>	<1>
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	<4>	<3>	<2>	<1>
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	<4>	<3>	<2>	<1>

④ 学科・教員設定項目	4 あてはまる	3 ややあてはまる	2 あまりあてはまらない	1 あてはまらない
(31)	<4>	<3>	<2>	<1>
(32)	<4>	<3>	<2>	<1>

■ この授業を通して、重要であると思った概念・理論・キーワード等を以下の左欄に5つあげてください。また、それぞれを自分がどの程度理解していると思うか右欄にマークしてください。

1.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
2.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
3.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
4.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解
5.	<4> 理解	<3> やや理解	<2> やや不理解	<1> 不理解

■ この授業についての意見・感想・要望を以下の欄に記述してください。

★記入ミス等がないか、もう一度ご確認ください。ご協力ありがとうございました。

工学部「授業アンケート」実施要項

〔1〕授業アンケートの実施日について

原則として、授業の最終日の最後の 10 分程度を、授業アンケートの時間として充ててください。最後の授業では時間が取れない場合は、その前の授業でも構いません。

なお、授業アンケートは、単なる調査ではなく、学生自身も授業や学習を振り返ることによって、次の学習に結びつけるための学習の機会としても位置づけています。従って、工学部の学生だけでなく、受講生全てに、アンケート調査に回答する機会を平等に提供してください。

〔2〕授業アンケート入り封筒の配布

該当授業の担当事務局より、受講者分のマークシートを入れた封筒が配布されます。なお、授業前々日までにマークシートが届いていない場合は、授業の担当事務局（専門基礎科目・全学共通科目については共通教育教務掛、工学部専門科目については学科事務局）にお問い合わせ下さい。また、お手元に授業アンケート入り封筒が届きましたら、科目名（講義 or 実験・実習・演習の区別、曜日・時限など）に間違いがないかどうか、必要部数が含まれているかどうか等についてご確認下さい。なお、学生がマークシート記入後にその封筒に直接入れ、最後に回答する学生が、その封筒に封をした上で、事務局に提出いただくこととなりますので、封筒はお捨てにならないようお願いいたします。

〔3〕授業アンケート実施の手続き

① 授業の最後の 10 分程度を確保して、マークシートを学生に配布して下さい。その際に、授業アンケートも授業の一部であることを強調していただければ幸いです。

② 【学科・教員設定項目について】 学科ごと、あるいは、教員ごとに、独自の項目を 2 項目まで設定できます。それをご利用の場合には、その項目内容を板書するか、あるいは、別にプリントして配布するなどして、質問項目番号と項目内容の徹底を図ってください。なお、自由設定項目は、所定の用紙に、科目コード、科目名、教員名等と共に、項目番号と項目内容を記載して、マークシートと共に封筒に同封して提出してください。

③ 【学生番号記入の意味】 学生名・学生コードの記入を徹底してください。特に、学生コードのマークは正確に記入するよう確認を促してください。

なお、なぜ個人情報を記入しなければならないかについて質問等が出た場合には、アンケート裏面にその趣旨を簡単に記載しておりますので、それを各自読んでいただくという事で問題はないかと思えます。何かありましたら、授業アンケートが「授業研究」の一つの手段として捉えられており、他の授業アンケートなどとの関連性を見たり、学科ごとの違いを見たりするなど、より詳細な分析のために学生番号が必要ということであり、「個人名が公表されたり、成績評価に関係したりということは一切ない」ということを強調して下さい。

【学生番号記入の意味】 この種の授業アンケートは、無記名のアンケートも少なくありませんが、回答に責任をもっていただくということも、記名方式を採用した一つの理由となっています。また、京都大学では、この「授業アンケート」を「授業評価」としてよりも、「授業研究（とりわけ、担当する教員自身の）」という位置づけをしておりますので、他の授業アンケートのみならず、成績との関連性も検討する予定にしております。そのような他データとのマッチングを行う際に、そのキーとしても学生番号は必要となります。そのようなマージの作業が完了した時点で、学生番号は消去され、その他のマージされたデータのみについて分析を行うなど、個人情報のセキュリティには細心の注意を払います。

④ マークの記入欄は破損や汚れのないように注意して下さい。また、訂正は消しゴムでしっかりと消すように伝えて下さい。マークシートには、鉛筆かシャープペンシル（通常の H~2B 程度）でマークする旨を記載していますが、万一、黒のボールペンでマークしてしまった場合は、それでも構いません（赤のボールペンは避けてください）。ただし、ボールペンの場合は、ミス記入を×等で上書きして訂正しても無効回答になってしまいますので、できれば、鉛筆かシャープペンシルでのマーク記入を進めて下さい。万一、ボールペンで記入して修正が必要となった場合は、余分のマークシ

トがあれば、元のマークシートを破棄（混入しないように破るなどしておいて下さい）して、新しいマークシートに間違いのないように記入させることは可能です。

⑤ アンケートの内容について学生から質問があった場合には、基本的に、「学生の判断に任せる」と回答していただければ十分です。なお、「キーワード」に関しては、できるだけ5つ書いてもらうようにして下さい。「自由記述」もできるだけ記載するようにして下さい。

⑥ 回答の終了した学生から、教卓等に置いてあるマークシートを入れてあった封筒に回答済みのマークシートを直接入れる形で提出するように伝えて下さい。なお、アンケート記入時には、学生のアンケート記入が直接見えない位置等で待機するなどの配慮をして下さい。TA などがいる場合には、回収については、らせていただいても構いません。

⑦ 回答の最後になった学生は、その封筒に封をして、担当教員（あるいは、TA）にその封筒を渡すように伝えて下さい。そうすることによって、個々の学生がどのように回答しているかは、本人以外にはわからないこととなります。

[4] 授業アンケート入り封筒の提出

授業の担当事務室（専門基礎科目・全学共通科目については共通教育教務掛、工学部専門科目については学科事務室）に、回答済みの封をしたマークシート入り封筒を**直接**提出して下さい。なお、言うまでもないことですが、決して封を開けて中を見ることのないようにお願いします。

また、残部のマークシートは適宜処分して下さって構いません。

回答済みマークシートの提出期限は7月末日とします。もし、授業日程の関係（集中講義など）で、実施日が延びるなどの事情がありましたら、各学科の担当事務室までご連絡下さい。各学課の担当事務より、高等教育研究開発推進センターには、8月5日（金）を目処に転送していただきます。

[5] 授業アンケート結果のフィードバック

アンケート結果は、成績表の提出後に、個々の科目ごとにフィードバックさせていただきます。主な内容としましては、各評定項目の選択肢選択率、平均値、標準偏差などの基礎統計量となります。また、自由記述やキーワードの記載に関しましては、個人名記載の上部を裁断いたしまして、回答のみフィードバックさせていただきます。

また、高等教育研究開発推進センターから、アンケート結果に関する報告書を出版する予定ですが、平均値等の基礎統計量に関しましては、個々の科目名が直接同定できる形で公表されることはありません。

データは、個人情報を含んでおりますので、高等教育研究開発推進センターにおいて、責任をもって管理いたします。

[6] 授業アンケート結果に基づく検討会などの開催

授業アンケート結果は、今後の授業やカリキュラム等の改善や向上に役立てていただくことを第一の目的としています。必要に応じて、授業アンケート結果の解釈の仕方や、工学部教育のあり方等に関する検討会やシンポジウム等の機会をもつなどのことも考えられます。そのような際には、何人かの先生方には、ご自身の授業の取組や工夫を、授業評価アンケート結果に基づいて振り返っていただき、その報告をお願いする場合もあり得ます。工学部の先生方の他、高等教育研究開発推進センターの教員、学生なども参加するなどして、幅広い視点からの意見交換を通じて、授業アンケートの更なる利用を心がけていただければ幸いです。

なお、ご不明の点等がございましたら、高等教育研究開発推進センターの
大塚雄作教授（otsuka@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-9368）
松下佳代教授（kmatsu@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-3085）
までお願い致します。

以 上

科目名：xxxxxx (xxxxxx) 成績担当教員：xx xx
 xxxxx学科ノ講義 2005年度前期 総回答数：170

出席率	有効回答数	標準偏差	10割以上 9~7割 7~5割 5割未満	(30)との
167	167	4.80	5(%) 83.8%	相関係数 0.142
166	166	1.08	4(%) 12.0%	1(%) 0.0%
166	166	18.69	3(%) 4.2%	2(%) 0.0%
		0.82	2(%) 8.4%	1(%) 0.041
		0.82	1(%) 0.6%	0.062

(女子の割合： 8.4%)

①自分自身の学習状況等について

項目	有効回答数	平均値	標準偏差	4(%)	3(%)	2(%)	1(%)	(30)との相関係数
(1) シラバスを参考にした	170	1.95	1.07	10.0%	24.7%	15.9%	49.4%	0.160
(2) 授業の予復習をすように努めた	168	1.63	0.76	1.2%	13.1%	32.7%	53.0%	0.215
(3) 授業中は授業に集中していた	169	2.44	0.89	9.5%	42.0%	31.4%	17.2%	0.450
(4) 与えられた課題にきちんと取り組んだ	170	3.30	0.83	48.2%	39.4%	6.5%	5.9%	0.348
(5) 関連ある文献などを積極的に読んだ	168	2.15	0.99	10.1%	26.8%	31.0%	32.1%	0.201
(6) 疑問点など友人に聞いたり話したりした	170	2.12	0.92	8.2%	24.1%	39.4%	28.2%	0.354
(7) 教員に疑問点などを積極的に質問するように努めた	170	1.73	0.86	3.5%	15.9%	30.6%	50.0%	0.250

②授業の内容・方法等について

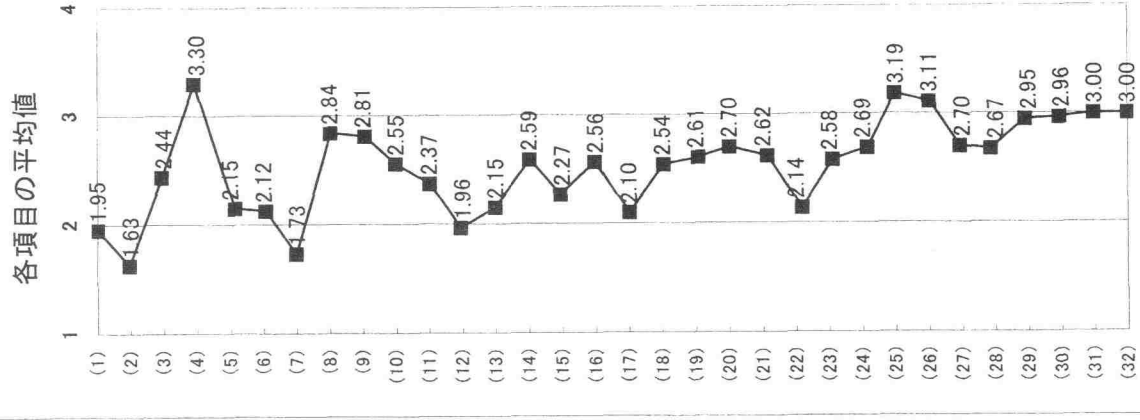
項目	有効回答数	平均値	標準偏差	7.6%	21.2%	44.7%	26.5% <th>0.159</th>	0.159
(8) 授業は理解できた	170	2.84	0.77	17.6%	54.1%	22.9%	5.3%	0.485
(9) 授業の目的が示されていた	169	2.81	0.83	18.9%	50.9%	22.5%	7.7%	0.532
(10) どこが重要なポイントであるかがよくわかった	170	2.55	0.76	9.4%	43.5%	40.0%	7.1%	0.495
(11) 学生自身に考えさせる工夫がなされていた	168	2.37	0.81	8.3%	32.7%	46.4%	12.5%	0.468
(12) 授業中に学生の質問・発言などを促してくれた	169	1.96	0.82	4.7%	17.8%	46.7%	30.8%	0.291
(13) 授業中に提出した課題や疑問に対し適切な応答がなされた	168	2.15	0.93	9.5%	22.6%	41.1%	26.8%	0.152
(14) 内容に関する興味を高めるための配慮があった	170	2.59	0.85	11.8%	47.6%	28.2%	12.4%	0.469
(15) 教科書・参考書、プリントなどが学習の助けになった	169	2.27	0.89	7.1%	34.9%	35.5%	22.5%	0.398
(16) 教員の授業に対する熱意を感じた	170	2.56	0.88	12.9%	43.5%	30.6%	12.9%	0.491
(17) 成績評価の方法や基準等が明らかにされていた	170	2.10	0.88	7.6%	21.2%	44.7%	26.5%	0.159
(18) クラスサイズ(受講者数)は適切だった	170	2.54	0.93	14.1%	42.4%	27.1%	16.5%	0.243
(19) 教室環境に問題はなかった	170	2.61	0.96	18.8%	38.2%	27.6%	15.3%	0.254
(20) 板書や視聴覚機器の文字・図表は見やすかった	170	2.70	0.88	19.4%	40.0%	31.8%	8.8%	0.366
(21) 授業内容は体系的に整理されていた	169	2.62	0.83	11.8%	48.5%	29.0%	10.7%	0.455
(22) 授業はノートをとりにやすかった	169	2.14	0.79	3.6%	28.4%	46.2%	21.9%	0.358

③授業全体を通して得られた成果等について

項目	有効回答数	平均値	標準偏差	14.7%	40.6%	32.4%	12.4% <th>0.585</th>	0.585
(23) 授業に参加しているという感覚がもてた	170	2.58	0.89	14.7%	40.6%	32.4%	12.4%	0.585
(24) カリキュラムの中で位置づけがよくわかる授業だった	170	2.69	0.91	18.8%	42.9%	26.5%	11.8%	0.436
(25) 自分が専攻したい領域にとって重要な内容だった	170	3.19	0.78	38.2%	45.3%	13.5%	2.9%	0.579
(26) 自分の将来の進路に役に立つと思った	170	3.11	0.80	34.7%	45.3%	16.5%	3.5%	0.642
(27) 授業にわくわくするような感覚をもったことがあった	170	2.70	0.95	21.2%	40.6%	25.3%	12.9%	0.546
(28) 今後の学習のために必要な知識や技能が身についたと思う	168	2.67	0.80	14.9%	43.5%	35.7%	6.0%	0.668
(29) この授業の関連分野に興味や関心が深まった	170	2.95	0.78	23.5%	51.8%	20.6%	4.1%	0.736
(30) 総合的にみて、自分にとって意味のある授業だった	169	2.96	0.79	24.9%	51.5%	18.9%	4.7%	1.000

④学科・教員設定項目

(31)	1	3.00	-	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	-
(32)	1	3.00	-	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	-



平成17年 月 日

各 位

京都大学高等教育研究開発推進センター
センター長 丸山 正樹
京都大学工学研究科
研究科長 荒木 光彦

「授業アンケート」ご協力へのお礼と事後アンケートのお願い

昨年度実施いたしました、工学部地球工学科、建築学科、電気電子工学科、及び、関連専門基礎科目の「授業アンケート」にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

早速、高等教育研究開発推進センターの方で、その概要を『京都大学高等教育叢書21・2004年度工学部授業アンケート（速報版）』としてとりまとめましたので送付させていただきます。

なお、授業アンケートの結果には、科目を単位とした統計量の分布なども記載されていますが、個々の科目のアンケート結果は、誤差要因も含めて、さまざまな要因が複雑に絡み合っており得られたものですので、科目間の比較をすることはあまり意味がありません。個々の授業の特徴は、結果のプロフィール等に基づいて全体的に捉え、授業やカリキュラムの改善に生かすことが、本アンケートの主要な目的となっております。

その趣旨を生かすために、また、授業アンケートのさらなる改善のために、先日送付させていただきました「授業アンケートの結果」、及び、「速報版の報告書」などをご覧いただいた範囲で、別紙の「担当教員アンケート」にご回答いただきまして、高等教育研究開発推進センターに返信していただきますようお願いいたします。

とりわけ、**キーワード等**の内容は非常に専門性が高く、学生がどの程度適切なキーワード等をあげているのか、ご担当の先生以外には判断ができません。先生からのご回答がなければ、せっかく学生に回答してもらいながら、それを分析したり教育改善に生かすことが困難になります。このことをおくりいただければ幸いに存じます。

なお、今回の担当教員アンケートの結果、成績との関連の分析結果などにつきましては、別途、報告書としてまとめる予定です。

新学期も始まり、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、よりよい教育システムの構築をめざして、何卒よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

なお、授業アンケートの結果、速報版の報告書等、別紙アンケート等にご質問・ご意見等がございましたら、高等教育研究開発推進センター大塚雄作教授（otsuka@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-9368）、あるいは、松下佳代教授（kmatsu@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp、753-3085）までお願い致します。

以 上

「授業アンケート」結果に関する担当教員アンケート

■XXXXXXX (科目コード) x x x x x (科目名) x x x x 先生

[1] 授業アンケートで、学生にキーワード等を5つ取り上げてもらっていますが、以下に、2人以上から取り上げられたキーワード等を示しました（受講者数の少ない科目は全てを示している場合があります）。それらは、先生ご自身、担当された科目の授業においてどの程度重要であるとお考えでしたか。5段階で評定してください。

重要な概念・キーワード・等	回答数	非常に重要	かなり重要	やや重要	重要でない	重要でない
(1) フーリエ変換	9 ……	5	4	3	2	1
(2) フーリエ級数	5 ……	5	4	3	2	1
(3) デルタ関数	3 ……	5	4	3	2	1
(4) フーリエ解析	3 ……	5	4	3	2	1
(5) 常微分方程式	3 ……	5	4	3	2	1
(6) 複素関数	3 ……	5	4	3	2	1
(7) 複素関数論	3 ……	5	4	3	2	1
(8) コーシー、リーマンの関係式	2 ……	5	4	3	2	1
(9) フーリエ関数	2 ……	5	4	3	2	1
(10) δ 関数	2 ……	5	4	3	2	1

★以上の他に、ご自身が重要と思われるキーワード等で、学生の多くが取り上げていないものがありましたら、以下に記載してください。（なお、取り上げ頻度の低いキーワード等については、授業アンケート結果「速報版」などをご参照下さい）

[2] 授業アンケートの結果および「速報版」などをご覧になって、先生ご自身は以下の意見のそれぞれにどの程度あてはまるとお考えですか。あてはまりの程度を4段階で評定してください。

	あ て は ま る	あ や て は ま る	は あ ま ま ら り な あ い て	あ て は ま ら い
①自分の授業の授業アンケートの結果から新たな発見があった……………	4	3	2	1
②授業アンケートの結果から授業などの改善のヒントが得られた……………	4	3	2	1
③学生の挙げたキーワードは全体的に自身の想定とかなり合致していた	4	3	2	1
④学生のキーワードの理解度評定は想定したレベルにほぼ達していた…	4	3	2	1
⑤学生の挙げたキーワード等のリストは興味深かった……………	4	3	2	1
⑥学生の挙げたキーワード等のリストや理解度平均は役に立った……………	4	3	2	1
⑦学生の自由記述からこれからの授業に有用な情報が得られた……………	4	3	2	1
⑧このような授業アンケートをこれからも続けていきたい……………	4	3	2	1

[3] 授業アンケートには、30項目の評定が含まれていますが、授業の改善等に有用であると思われる項目がありましたら、以下に挙げてください。

また、先生の授業の特徴を表わすために、何か他の項目が必要と思われる場合には、その具体的内容を以下に挙げてください。

★役に立つと思った項目
★他に必要と思われる項目

[4] 授業アンケートの結果や、「速報版」の報告書をご覧になって、①ご自身の授業で何か改善すべきこと、②今までに気付かなかったことで発見したこと、③カリキュラムのレベルで改善すべきこと、④本授業アンケートへのご感想・ご要望、⑤授業アンケートに関してさらに分析してほしい事項など、ご自由に以下にお書き下さい。

★ご協力ありがとうございました。5月10日までに高等教育研究開発推進センターまで、同封の返信用封筒にてご返送下さい。